

WHOがNO2、PM2.5の基準値強化!

第七波コロナ感染が、急拡大しています。三密を避け、感染予防に気をつけてください。国や川崎市には有効な対策を講じ、コロナを抑え込む最大限の努力をお願いします。一日も早い収束を願っています。医療機関等で働くみなさんのご努力に心から敬意を表します。

日本の環境基準の4分の1

二〇二一年九月、WHO（世界保健機関）は「健康な生活を送るために必要な大気の基準」を一六年ぶりに改訂しました。私たちが特に注目したのは、NO₂とPM_{2.5}の基準です。PM_{2.5}は年間平均濃度を10 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ から5 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ に、NO₂は四〇 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ から一〇 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ に引き下げました。NO₂についてみると年平均濃度一〇 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ とし、日平均濃度も二五 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ （年間九九%値）と新たに設定しました。NO₂は質量濃度ですから、容積濃度に変換すると年平均指針は約〇・〇〇五ppm、日平均値は〇・〇一二ppmとなります。現在日本の環境基準は年平均値がなく、日平均値のみが設定されていて、その基準は「〇・〇四〜〇・〇六ppmの範囲、またはそれ以下」（年間上位九八%値）です。

ぜん息発症や悪化に拍車!

WHOが「健康な生活を送るために必要な大気の基準」として示したNO₂及びPM_{2.5}の基準は、日本の環境基準よりも厳しいものです。また、**大気汚染はぜん息や慢性閉塞性疾患の悪化につながる」と指摘しています。**

また、大気汚染が気候変動と並ぶ重大な脅威となっており、指摘しています。川崎市内には空気の汚れを測る常時測定所が、一般測定所九か所と自動車排出ガス測定所が九か所、合計一八か所の測定所があります。WHOが今回示した基準を下回る測定所はありません。「健康な生活を送る」ための基準ですから、上回れば新たにぜん息を発症する市民や慢性閉塞性疾患の悪化を招く恐れがあります。

川崎市が実施している「成人ぜん息患者医療費助成条例」の適用者は、毎月増加しています。川崎市は、WHOが示した新基準に基づき、大気汚染改善のための対策を打ちだし、ぜん息等で苦しむ市民が発生しないための対策を強化すべきではないでしょうか。

WHO（世界保健機関）の新指針値
2021年9月公表

日本の環境基準とWHO(世界保健機関)の指針値			
	日本の環境基準		WHOの指針値(注)
	1978年設定 PM2.5は2009年	2005年設定	2021年の新指針値
SO2 ppb	日平均98%値:40 1時間値:100	日平均値:7 10分平均値:175	日平均99%値:14 10分平均値:175
NO2 ppb	日平均98%値: 40-60	年平均値:20 1時間平均値:102	年平均値:5 1時間平均値:12
PM10 μg/m ³	(日本SPM) 日平均値:100	年平均値:20、 日平均値:50	年平均値:15、 日平均値:40
PM2.5 μg/m ³	年平均値15、 日平均値35	年平均値10 日平均99%値25	年平均値5 日平均99%値15
O3 ppb	(日本O ₃) 1時間値:60以下	8時間平均値:47	Peak season 28 (注2) 8時間平均99%値:47

(注1)WHOはSO₂、NO₂、O₃も質量濃度(μg/m³)で表示しているが、本表では体積濃度(ppb)に換算した値を示した。
(注2)連続6か月平均濃度が最高のシーズンにおける毎8時間平均最高値

■NO₂とPM_{2.5}は大幅に強化された
■NO₂は日平均値99%値が新設された
■ソラダスの結果は新指針値と整合する

2022年9月1日

まちづくり・環境運動川崎市民連絡会、宮前区役所・市民館・図書館の移転に反対し鷺沼駅前再開発を考える会、羽田増便による低空飛行ルートに反対する「川崎区民の会」、川崎の安全でおいしい水道水を守る会、西加瀬巨大物流倉庫を考える住民の会、リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会、小杉・丸子まちづくりの会、川崎公害病患者と家族の会、川崎北部のぜん息患者と家族の会、川崎公害根絶・市民連絡会

<連絡先>川崎市川崎区砂子2-8-1-512 ☎044-211-0391 FAX044-233-4689

*ぜん息でお悩みの皆さん!川崎市の医療費助成手続きをご存知ですか。詳しくは044-244-7440